

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	統括部局：学長室	担当部局：学長室
大項目	6 教育内容・方法・成果（研究科）《全学的な視点》	
中項目	6.3 教育方法	
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。	
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）	
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。	
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性	
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。	
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性	
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。	
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施	

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 各教員が研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導を行う。	→指導要領の作成	C	C			
2. 授業評価等を実施することによって授業改善への取り組みを推進する。	→学生による授業評価アンケートの回収率、大学院FD部会の開催	C	B			
			☆			
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
なし	→なし					
なし	→なし					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.3.1	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。 (方針) 専門性のある教育研究を展開する大学院では、教育内容、方法、成果の統一的な指標をもちにくいのが現実であるが、中央教育審議会においても議論されているとおり、今後は大学院教育についても世界水準を意識した教育方法やその指導、授業の計画性、厳格な成績評価と単位認定は世界の中で本学大学院が認められていくには必須のこととなる。そのため、まずはFD活動を主要な指標として、効果的な教育体制を確立していく。 (現状説明) 教育方法及び学習指導については、各研究科の独自性による部分が大きく、全学的に履修登録上限の設定や指導要領の作成には至っていない。ただし、それぞれの研究科においては将来構想の部会や研究科内部に部会を設けて、効率的な授業形態、学生主体の授業方法や学生指導などを検討している。
----------	--

★ 小項目6.3.2	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。 (説明) 研究科においてそれぞれシラバスを作成し、計画的に授業を展開している。授業内容・方法とシラバスとの整合性についても、各研究科においてそれぞれ意識して作成されている。
小項目6.3.3	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。 (説明) 各研究科において、これまでの成績評価と単位認定の実績に基づいて適切に単位認定は行われている。
小項目6.3.4	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない (説明) 大学院FD部会を設置し、2011年1月に部会を開催した。その中で各研究科におけるFDへの取り組みなどに関する情報交換、および今後のより一層の取り組みの強化に向けた意見交換を行った。
その他	

《評価指標データ》

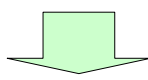
- 履修者数規模別の授業科目数 (少人数・中人数・大人数)
- 少人数授業の授業形態の調査
- 規模別講義室・演習室使用状況
- マルチメディア教室の稼働率
- 遠隔授業を活用した授業の比率
- 各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況【基本的な指標データ】
- 履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
- 学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率 (大学、学部別、授業形態別)
- 成績評価の分布が適正な科目 (平均点が70-75点) の比率
- GPA値 (全学、学部別、男女別など)
- 定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
- オープン授業 (授業公開) の全授業における割合
- 学生の授業評価の実施率 (全学、学部別)
- 学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率 (大学、学部別、授業形態別)
- 在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
- 在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
- 大学院生の論文件数 (査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
- 日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
- 一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数【基本的な指標データ】

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	



《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○「目標」2の進捗評価はBに向上していますが、大学院FD部会を設置した結果「効果が上がっている事項」として特記できることはないのでしょうか。できるだけ根拠を提示する姿勢を持つことが望まれます。

【学内委員】

○6.3.2のシラバスに基づく授業の実施、6.3.3の成績評価と単位認定の適切性の説明について、「意識して作成」とか「これまでの実績に基づいて」とか、根拠がいささか曖昧ではないでしょうか。

○2009年度に設定された目標の中に、各教員が研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導を行うという目標が掲げられておりますが、それは言うまでもなくきわめて重要なことですから、達成に向けた努力が続けられることが期待されます。

○現状の説明(小項目6.3.1)で「FD活動を主要な指標として、効果的な教育体制を確立していく。」との記載がありますが、FD活動の何を主要な指標とするのか示していただきたい。

○現状の説明(小項目6.3.3)で「各研究科において、これまでの成績評価と単位認定の実績に基づいて適切に単位認定は行われている。」との記載がありますが何をもちょうに判断されたのか根拠を示していただきたい。

○ほぼ昨年度と同じ記述ですが、大学院全体の記述としては、すこし物足りない印象です。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・小項目6.3.1における(方針)は、(現状説明)として記述してください。

・小項目6.3.1については、「要素」の「研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導」「実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導」の説明が必要かと思えます。掲げられた目標1にも触れながら説明をお願いします。

・大学院のシラバスについては十分とは言えません。少人数授業が多いため学部のようにはいかないでしょうが、改善は必要です。2006年度の認証評価において助言を附されている研究科もあります。関西学院大学大学院として何らかの対策が必要でしょう。

・大学院のFD活動については、2006年度の認証評価において助言が附されています。大学院FD部会の早期開催と各種施策の実行が待たれます。

・小項目6.3.1における現状説明で、課題がかかげられているのであれば、改善すべき事項に記述をお願いします。

・2009年度に設定された目標は適切であるといえます。それらの達成のための体制の構築が望まれます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.3.1

基盤評価：「当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること」「【学士】単位の実質化を図るため、1年間の履修科目登録の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置（厳格な成績評価など）が併せてとられていること」「【修士・博士】研究指導計画に基づく研究指導、学位論文作成指導を行っていること」

○小項目6.3.2&6.3.3

基盤評価：「授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること」「授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること」「既修得単位の認定を、大学設置基準等に定められた基準に基づいて、適切な学内基準を設けて実施していること」

○小項目6.3.4

基盤評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること」
達成度評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が、定期的実施されるものであり、また、これを踏まえた改善プロセスを明らかにしているなど、教育の質の維持・向上に恒常的かつ適切に取り組んでいる」

○小項目6.3.1～6.3.4

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得を促進する教育方法を採用している。」（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。）

- ・方針と、授業形態等の教育方法の実態との整合性
- ・学習指導の充実等、学生の学習成果の修得を促進する取り組み
- ・シラバスを通じて示した授業計画、成績評価方法・基準等の適切な履行

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

追加記載なし。

